

春日忌

春日局追善供養



令和元年 2019.10.14 月 10:00-16:00



臨濟宗妙心寺派 天澤山麟祥院 寺報第十号

彼岸について

お彼岸は秋分の日を中日とした前後三日間の期間の事です。

今年の秋分の日は九月二十三日(月)なので二十日が彼岸入り、二十六日が彼岸明けとなります。このお彼岸という文化は日本の仏教独自の物であり、世界各国の仏教には存在しません。

彼岸の語源はサンスクリット語のパーラシター(波羅蜜多)の意識で、到達・成就と言った意味があります。此岸は迷いや苦悩に満ち溢れた世界であり悟りを開いた先の彼岸には涅槃、つまり煩惱のない世界があるとされています。

また秋分の日には「祖先を敬い、亡くなった人々を偲ぶ」という意味があり春の彼岸の春分の日「自然を称え、生物を慈しむ」意味があるそうです。秋分の日・春分の日は昼夜の長さが同じになると言われています。仏教においてはあの世は西に存在すると考えられており、太陽が真西に沈むことになる秋分の日・春分の日はこの世とあの世の距離が最も近くなる日と考えられています。そのためこの期間に供養をしつかり行う事によって極楽浄土へ向かうことができるようになると言われています。

彼岸入りには仏壇・仏具を清め、お彼岸の期間はお花やお供え物をお供えしましょう。お供え物には秋にはお萩、または果物や故人の好きなものをお供えします。お供えした後は自分たちでしっかりと戴きます。食べる事で神仏力を自分たちの中に取り込むといった意味もあります。



令和元年9月2日
第10号発行

編集発行(宗)麟祥院
〒113-0034
東京都文京区湯島
4-1-8



受付処に
ちよのスタンプが
置いてあります
お立ち寄りの際には
ご自由に押して下さい

六波羅蜜

お彼岸の七日間は故人や先祖供養の為だけの日ではありません。自身を省みて、大切な教訓を改めて考えて実践する機会でもあります。迷いや苦悩を断ち切って彼岸にたどり着くための修行として六波羅蜜の実践があります。

- 布施 ひとに施しを与えること
 - 持戒 戒律を守り、顧みること
 - 精進 つねに努力すること
 - 忍辱 苦しんでも耐えること
 - 禅定 心を落ち着かせ、安定させた状態で自己反省すること
 - 智慧 正しく判断する力を持ち、物事薄真実を見る目を持つこと
- 一辺に実践することは難しいですが、この機会に一つずつ挑戦してみるのも良いかもしれません。

本の紹介



『心。』
著：稲盛和夫
(サンマーク出版 2019年6月25日初版発行)

稲盛和夫氏の御本の紹介

今回紹介させていただくのは、稲盛和夫氏の著書『心。』です。「人生のすべては自分の心が映し出す」という一文から始まる本書。著者が気づき多くの人々に伝え残していきたい心の在り様についてわかりやすく記されています。その中からいくつかの文章を引用させていただきます。

- 「よいときも悪いときも 感謝の思いで受け止める」
- 「喜んで感謝すれば、 悪しき『業』も消えていく」
- 「感謝すれば、 厳しさもまた財産になる」
- 「謙虚さは 良い人生を歩むためのお守りになる」
- 「仕事に没入すれば 『宇宙の真理』にふれられる」
- 「まず身近な人のために できるかぎりのことをする」

- 「利他の思いから行動すれば 自らのもとに返ってくる」
- 「『足るを知る』生き方は 自然界が教えてくれる」
- 「その瞬間に 『できる』と思えば実現できる」
- 「未来を信じて進めば、 『神のささやき』がある」
- 「逆風にさらされても、 正しい道をまっすぐに行く」
- 「正しい生き方をすればこそ、 人は困難にあう」
- 「損得ではなく、 『人として』正しいかどうかで判断する」
- 「生まれたばかりの魂も 美しいとはかぎらない」
- 「人格を高めなければ、 人の心は動かせない」
- 「『運命の師』との出会いで、 人生は大きく変わる」
- 「すべては心に始まり、 心に終わる」
- 「などなど、たくさんハッとさせられるような数々の文章が記されており、これら以外にもたくさん教えががあります。これらの文章の後にはそれぞれにエピソードや著書の思

著者プロフィール

稲盛和夫（いなもり・かずお）

一九三二年、鹿児島生まれ。鹿児島大学工学部卒業。五九年、京都セラミック株式会社（現・京セラ）を設立。社長、会長を経て、九七年より名誉会長。また、八四年に第二電電（現・KDDI）を設立、会長に就任。二〇〇一年より最高顧問。一〇年には日本航空会長に就任。代表取締役会長、名誉会長を経て一五年より名誉顧問。一九八四年には稲盛財団を設立し、「京都賞」を創設。毎年、人類社会の進歩発展に功績のあった人々を顕彰している。著書に『生き方』『京セラファイロソフィ』（サンマーク出版）、『働き方』（三笠書房）、『考え方』（大和書房）など、多数。

稲盛和夫オフィシャルホームページ

<https://www.kyocera.co.jp/inamori/>

令和初のねこまつり
今回は麟祥院の本堂をご利用いただいて
ねこ落語が開催されます

日時：2019年9月16日（月・祝）
17：00 開場 18：00 開演

場所：麟祥院 本堂

入場料：前売り 1,300 円/当日 1,500 円

出演：五街道雲助（ごかいどう くもすけ）
芸術選奨文部科学大臣賞受賞（大衆芸能部門）
紫綬褒章受章

演目：①猫と金魚 ②猫定
題字：江戸文字・寄席文字書家 橘右之吉

申込先：ねこまつり at 湯島実行委員会
（王冠印雑貨店内）

問い合わせ先：03-6806-0252

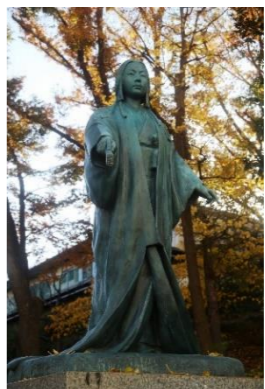
まだお席ございます
皆様のご来場心よりお待ちしております。

春日局・細川ガラシャ顕彰プロジェクトの紹介

二〇二〇年の大河ドラマ「麒麟がくる」。主人公である明智光秀公は春日局の父齋藤利三公の主君でした。その春日局と明智光秀公の娘である細川ガラシャは、文京区との縁の深い人物です。そこから文京区ではふたりを顕彰するプロジェクトが実施されます。

麟祥院への春日局像の移設

現在は礫川公園にある春日局像。その像が菩提寺である麟祥院の前に移設され、今年の春日忌では除幕式が執り行われます。



スタンプラリー

文京区の方でリリースされているアプリを利用し、二人のゆかりの地九か所を巡るスタンプラリー。麟祥院にもスタンプを設置いたします。スタンプラリーは春日忌のある十月十四日から開催されます。

ガイドツアー・企画展

文京区の観光ガイドの方とゆかりの地を巡るツアーが秋と冬に一度ずつ開催されるそうです。令和二年三月二十四日から二十九日まで、文京区シビックセンターにてふたりの生涯を文京区とのかかわりを踏まえて紹介する企画展が催されます。

参考：文京区HP 春日局・細川ガラシャ顕彰プロジェクトにご協力ください
<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/kasuganotsubone.html>
ふるさと納税 <https://www.furusato-tax.jp/gcf/601>
※皆様ご協力の程宜しくお願い申し上げます

いが添えられています。仏教をベースとした考えもあり、現代を生きる人々にもわかりやすく生活に活かしていくきっかけになるかもしれません。このお彼岸の時期に、自分を見つめなおしてみるのも良いかもしれません。

引用：『心。』 著 稲盛和夫

（サンマーク出版

二〇一九年六月二五月初版発行）